

◆参考資料◆

◆映画「NO LIMIT, YOUR LIFE」は、ALS という難病を患いながらも強く生き抜く武藤さんとそれを支える妻、木綿子さんのドキュメンタリー映画です。ナレーションは石原さとみさんで、現在、全国 8 都道府県（東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・長野・山形）で劇場上映中の映画であり、昨年6月1日に、Various Values（ベリアスバリューズ）実行委員会が主催し滋賀県の多くの方に観ていただこうと滋賀県初上陸の上映を行いました。（約 500 名）

以下ご来賓の方々

近江八幡市長 小西 理 様

日野町長 堀江 和博 様

衆議院議員 上野 賢一郎 様 代理秘書 稲田隼也 様

衆議院議員 小寺 裕雄 様

参議院議員 こやり 隆史 様 代理秘書 桐山類 様

参議院議員 嘉田 由紀子 様

滋賀県議会議員 木ざわ まさと 様

滋賀県議会議員 今江 政彦 様

滋賀県議会議員 田中 松太郎 様

滋賀県議会議員 本田 秀樹 様

滋賀県議会議員 菅沼 利紀 様

滋賀県議会議員 岩崎 和也 様

近江八幡商工会議所副会頭 たねやグループ CEO 山本 昌仁 殿

近江八幡商工会議所副会頭 辻 雄一 殿

八日市商工会議所筆頭副会頭 冨田正敏 殿

スペシャルオリンピック日本・滋賀 会長 國松 善次 様

（一社）近江八幡観光物産協会 会長 森嶋篤雄 殿

近江八幡ロータリー 会長 岡村 遍導 殿 代理事務局長 たなか かずやす 様

一般社団法人近江八幡青年会議所理事長 西山 亮平 様

東近江市議会議員 西澤 由男 様

東近江市議会議員 安田 高玄様

近江八幡市議会議員 辻 正隆 様

近江八幡市議会議員 山本 英夫 様

近江八幡市議会議員 玉木 弘子 様

近江八幡市議会議員 山本 とみこ 様

近江八幡市議会議員 山本 妙子 様

近江八幡市議会議員 三上 英夫 様

近江八幡市議会議員 藤村 健造 様

近江八幡市議会議員 中塚 理恵 様

近江八幡市議会議員 久郷 定彦 様

滋賀学園高等学校 校長 近藤 芳治 様

近江八幡市立八幡中学校 校長 五嶋 弘道 様

近江八幡市立八幡東中学校 校長 伊丹 稔 様

近江八幡市立八幡西中学校 校長 北居 伸顕 様

◆夢みる商店街

■障がいのあるお子さんが未来に夢や希望を抱くことのできる職業体験■

・株式会社今岡牧場……………乳製品の配達及び販売

・株式会社 A-BEST……………ハンバーガー作り及び販売

・株式会社アクエリアス……………配管作り体験

・株式会社滋賀報知新聞社……新聞記事作り

・川口屋老舗……和菓子作り

・ NPO 法人アイ・コラボレーション・チラシ作り

・GEN……キッチンカーでの食品販売

・ホテル海老長……ホテルのチェックイン、チェックアウト業務

障がいのあるお子さんが将来に活躍できるお仕事の体験をしていただき、未来に夢や希望をもって今を生きていただく為に開催致しました。

この事業は脊髄損傷者団体の役員の方がご自身の体験を元に、障がい者となったと同時に未来に希望が持てなくなった当時の辛い経験を思い返し、今を生きる障がいのある子どもたちに夢や希望を胸に生きて欲しいという願いから実現する事業になります。

図面を書く仕事をしていた彼は、当時 21 歳で事故に遭い足が動かなくなったことでそれまでやっていた仕事を辞めなければいけませんでした。今思えば図面を書く仕事だったので辞める必要もなかったのに、当時会社側の障がい者理解がなかったこと、自分自身障がい者になったことで自信を無くし、何もできなくなったと思い込んでしまった状況もありました。もし会社に障がい者理解があり、その人に会った仕事を与えられれば、今働いている社員が年をとって目が見えにくくなったり、足腰が弱っても、彼と同じように事故にあったり、病気で倒れるようなことがあっても、できる仕事を考えることができる会社であれば、社員もその仕事ですっと働き続けたいと思えるのではないかと、持続可能な会社になるんじゃないかと、そう考えているという話を聞きました。

また、一方で、知的障がい者が、高齢者の認知症の介護に力を発揮している現場があるという話を聞きました。

介護の中でも認知症の介護となると、何度も同じことを言ったりトイレが失敗したりというだけでなく、攻撃的になったり意思疎通が困難になり奇声を発して暴れたり現場は本当に凄惨な厳しい状況ですが、通常の介護職員よりもむしろ知的障害の介護職員の方が、お年寄りや自然体でコミュニケーションが取れる状況が見受けられるという話を耳にしました。何度も同じことを言ったりイライラする認知症の高齢者に対しても、知的障害の介護職員は、感情を真に受けずに、マイペースで対応することでコミュニケーションが上手くいくということです。

また、それだけでなく注目すべきは、認知症の高齢者を介護する知的障害の介護職員の服の乱れや口元の汚れなどを逆に認知症の高齢者が整えて世話をしてくれたりする光景が起こることです。

通常では困難とされていたことも出来ることを見出すことにより、予想を超える互いに支え合う関係をも生み出している現状が社会に埋もれています。

目の前の即戦力よりも相手をおもいやり活躍できる環境を見出すことで、障がい者理解は深まるでしょうし、まだまだクリアできる課題はあることを感じさせてくれます。

つまり、障がい者理解を深めることは、障がい者を救うだけでなく、社会全体として人が互いを必要とし共鳴し合う崇高な社会を教えてくれる気がしています。

日本をはじめ世界が抱える超高齢化社会の問題、今後ますます高齢者の認知症患者が増え、人手不足が深刻になる一方で、このような知的障がい者の活躍は、未来の問題を解決するヒントになっているかと考えます。

会社であれば経営者がその意識を持ちハンデのある方も活躍できる環境を見出すことに踏み込んでいかなければなりません。今回はそのことに共感していただいた 8 社が協力に名乗りを上げていただき、障がいのあるお子さんが未来に夢や希望を持てる様に、仕事で活躍できる役割を考えて設営いただきました。

企業の義務として障がい者を雇用するという感覚ではなく、おもいやりを持ち工夫してその可能性を見出すことが大切な部分かと考えており、それは予想を超える響き合う関係を生み出し、未来の社会をより崇高に価値のあるものへと創造していくかと考えています。

「当時の状況」

この事業を進めるにあたり障がいのあるお子さんにまず参加いただくことがそもそもの壁でもありました。

障がいのあるお子さんのダンスチームやバスケットボールチーム、ハンドベルや和太鼓のチーム、障がいのあるお子さんの放課後等デイサービス、

障がいのあるお子さんの作業所や養護学校等、委員会メンバーがお声がけさせていただき、できるだけ障がいのあるお子さんに職業体験

をしていただく為の準備を進め、職業体験受け入れ全体で 40 名弱のところ知的障害者、自閉症、ダウン症のお子さんが 3 分の 1 くらい
の申し込みをしていただくことになり開催することが出来ました。

当日は「ホテルマンになる！！」というお子さんの声をはじめ何より印象的だったのが障がいのお子さんを持つ親御さんの涙でした。

そして、この職業体験を経て自信を持っていただいたお子さん達が子ども実行委員会として来る 4 月当日の準備に向けて月に 2 回集まり準備やステージの練習など進めており、中でも発達障害のりんちゃんやダウン症のゆうすけらが障がいを吹き飛ばすかのように委員会を引っ張ってくれています。当日はたくましい雄姿を見せてくれる予定です。

茜吏ちゃんたちの日本発の野外音楽フェスでのメジャーステージをはじめ、企業が地元アーティストを引っ張り、地元アーティストは子ども達を引っ張り、その中で障がいのある子ども達が参画するのではなく「活躍する」チャレンジをぜひ見ていただきたいと考えております。

内容が盛りだくさんのため、ぜひ事前に取材していただくと有難く存じます。

よろしくお願いいたします。



@VARIOUSVALUES_2025

ベリアスバリューズの公式 Instagram から最新情報をお送りいたしますのでフォローお願いします！

11 日ごろには公式 Instagram にて全てのアーティストが出そろいます。

お問合せ 池内千代子 090-7105-1228

- 概要 大型野外音楽フェスティバル ベリアス バリュース VariousValues OMIHACHIMAN 2025
- 日時 令和7年4月19日(土)、20日(日) 開場8時00分より
- 会場 近江八幡市運動公園(近江八幡市津田町18)
- 主催 ベリアス バリュース VariousValues OMIHACHIMAN 2025 実行委員会
- 後援 滋賀県 滋賀県教育委員会 近江八幡市 近江八幡市教育委員会 大津市 大津市教育委員会 栗東市 栗東市教育委員会 長浜市 長浜市教育委員会 彦根市 彦根市教育委員会 愛荘町 愛荘町教育委員会 日野町 日野町教育委員会 守山市 守山市教育委員会 米原市 米原市教育委員会 豊郷町 豊郷町教育委員会 野洲市 野洲市教育委員会 竜王町 竜王町教育委員会 甲良町 甲良町教育委員会 多賀町 多賀町教育委員会 東近江市 東近江市教育委員会 湖南市 湖南市教育委員会 草津市 草津市教育委員会 FM 滋賀

相手を想い、互いを必要とすることで

障がい個性として活かされれば、社会は誰もが自分らしく挑戦できる世界へと生まれ変わるということをこのイベントの中で具現化し

「障がい」という壁に自信を持てなかった方に自信を持っていただき、自分らしく挑戦する機会を設け、そして、そこに至るまでの過程を子ども達に見ていただき、この大掛かりなイベントを地方の都市で開催することで地域の可能性を子ども達に感じていただきたく広く発信したいと考えております。